Environment 環境

AOKIグループは「TCFD提言」に賛同し、情報開示をさらに進めるとともに、各事業において環境負荷低減に取り組んでいます。

TCFD提言に基づく情報開示

基本的な考え方

AOKIグループは地球環境の保全を重要テーマと認識し、各事業における環境負荷低減に取り組んでいます。気候変動が企業などに与える影響に関する情報開示を求める「TCFD提言」にも賛同し、提言の枠組みに沿った情報開示をさらに進め、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

ガバナンス

サステナビリティ委員会において気候変動対応を審議

2021年12月、AOKIホールディングス取締役、部門長、グループ各社社長からなるサステナビリティ委員会を設置しました。同委員会は原則年2回開催し、気候変動が事業に与えるリスク・機会の評価を行うとともに、グループ全体の持続的成長に向けた年度計画および中長期計画について審議し、取締役会に報告しています。

取締役会は、サステナビリティ委員会で審議された重要事項や各計画の進捗報告を受けることで、取り組み状況のモニタリングを行うとともに、気候変動関連事項を考慮した事業計画を立案、実行します。

戦略

気候変動関連リスク・機会と事業への影響・対策

気候変動の影響を背景とした温室効果ガス排出に関する規制強化や、再生可能エネルギーへの転換、消費者の消費志向の変化などは、AOKIグループの事業や財務に影響を及ぼす可能性があります。現時点で影響が大きいと想定されるリスク・機会については以下のとおりです。

想定される主なリスク・機会　※当社グループへの影響が大きいと想定されるリスクと機会のみ記載しています。

種類			内容		当社および各事業が認識しているリスクと機会				AOKIグループへの影響
					AOKI-HD	ファッション	ブライダル	エンターテイメント	
リスク	移行リスク	政策・法規制	炭素税・カーボンプライシングなど、規制強化による店舗運営コスト増		ー	●	●	●	大
リスク	移行リスク	市場	重衣料など既存商品の需要減と温暖化に対応した商品開発の遅れによる顧客離れ		ー	●	ー	ー	大
リスク	移行リスク	評判	脱炭素への取り組み、移行の遅れによる顧客の離反		●	●	●	●	大
リスク	物理的リスク	急性	災害、感染症の蔓延による店舗営業縮小および生産地や物流網の混乱による販売機会の喪失		●	●	●	●	大
機会	資源の効率性		リサイクルの活用	原材料のリサイクルによるコストダウン・価値向上	ー	●	●	●	大
機会	エネルギー源		火力発電エネルギーから再生可能エネルギーへのシフト	再生可能エネルギー利用拡大によるコストダウン	●	●	●	●	大
機会	製品・サービス		低炭素・脱炭素に貢献し得る商品・サービスの開発・拡大	サステナビリティに対応した新商品、新サービスの開発	ー	●	●	●	大
機会	レジリエンス（回復力）		資源の代替・多様化	代替原料開発と原料仕入れ先との提携強化	ー	●	●	●	大

リスク管理

3つの委員会が連携して気候変動リスクを管理

グループ全体のリスク管理は、コンプライアンス委員会・リスクマネジメント兼情報セキュリティ委員会が行っています。気候関連リスクについては、サステナビリティ委員会が事業への影響度を評価のうえ対応方針を決定し、その進捗をコンプライアンス委員会・リスクマネジメント兼情報セキュリティ委員会と共有しています。サステナビリティ委員会で特定された重要リスクとその対応については、取締役会に提言され、その承認のもと、事務局であるサステナビリティ推進室が中心となり、対応にあたります。

指標と目標

環境負荷低減のためCO_2排出量削減を推進

AOKIグループは、環境負荷低減のため温室効果ガス（CO_2）排出量の削減を推進しています。2030年度に向けては、2017年度（2018年3月期）を基準年としてScope 1・2の排出量について1店舗当たり50%の削減を目指します。また、2022年度よりScope3の開示を実施しました。2050年に向けてインターナルカーボンプライシングの導入も視野に入れ、サプライチェーン全体でCO_2排出量ゼロを目標にさらなる取り組みを推進する計画です。

CO_2排出量

		2018年3月期（基準年）	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
AOKIグループ全社（Scope1+2）	（t-CO_2）	124,381	117,645	114,157	113,818	112,989	119,324
AOKIグループ対象店舗数	（店）	1,256	1,209	1,253	1,299	1,328	1,351
1店舗当たりのCO_2排出量	（t-CO_2）	99.0	97.3	91.1	87.6	85.1	88.3

温室効果ガス排出量

（単位：t-CO_2）

	2018年3月期（基準年）	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
Scope1	2,370	2,427	2,732	2,775	2,890	3,178
Scope2（Market Base）	122,011	115,218	111,425	111,043	110,099	116,146
Scope3	-	-	-	-	-	325,079
カテゴリー1　購入した製品・サービス	-	-	-	-	-	250,912
カテゴリー2　資本財	-	-	-	-	-	24,956
カテゴリー3　Scope1・2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	-	-	-	-	-	18,970
カテゴリー4　輸送、配送（上流）	-	-	-	-	-	2,497
カテゴリー5　事業活動から出る廃棄物	-	-	-	-	-	12,731
カテゴリー6　出張	-	-	-	-	-	1,179
カテゴリー7　雇用者の通勤	-	-	-	-	-	3,031
カテゴリー8　リース資産（上流）	-	-	-	-	-	0
カテゴリー9　輸送、配送（下流）	-	-	-	-	-	442
カテゴリー10　販売した製品の加工	-	-	-	-	-	0
カテゴリー11　販売した製品の使用	-	-	-	-	-	0
カテゴリー12　販売した製品の廃棄	-	-	-	-	-	4,843
カテゴリー13　リース資産（下流）	-	-	-	-	-	0
カテゴリー14　フランチャイズ	-	-	-	-	-	5,518
カテゴリー15　投資	-	-	-	-	-	0
Scope1+2+3	-	-	-	-	-	444,403

エコ商品の開発

ファッション事業では、環境負荷の軽減に向けて、エコ商品の開発に注力しています。

例えば、汗を気にせず洗えるスーツをはじめ、冷暖房をおさえたオフィス内でも快適にお過ごしいただけるクールビズ用の通気性の高いスーツ・ワイシャツの開発および温度調節がしやすい着こなしやウォームビズ用に暖かい素材を使ったスーツ、ベストやカーディガンを提案しています。

また、地球環境に配慮した商品の開発も進めています。ペットボトルや衣料品、繊維くずなどを原料としたリサイクル繊維「エコペット®」（帝人フロンティア株式会社）や、不要になった衣料品や生産時に出る裁断くずの繊維を原料とする再生ポリエステル素材「RENU®」（伊藤忠商事株式会社）を使用したワイシャツなどを展開しています。

サステナブルな原料を使用したワイシャツ